

全体総括

○計画期間：平成25年12月～平成31年3月（5年4月）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

草津市では、平成25年11月19日に内閣総理大臣の認定を受け、「“元気”と“うるおい”のある生活交流都市の創造」を基本理念に掲げ、中心市街地活性化協議会、まちづくり会社、商工会議所、行政を中心に、公民一体となって57の活性化事業に取り組んできた。

平成26年度には「アニマート跡地賑わい空間整備事業」によって、JR草津駅前に、ガーデニングを施した緑化広場と民間による商業テナントを持つ「niwa+（ニワタス）」を整備したことにより、長年低未利用地であった場所に新たなにぎわいが創出され、緑化広場を活用したガーデンパーナイトなどの定期的なイベント開催や、まちづくり会社と市民団体との協働による植栽の管理が行われている。

平成29年度には「草津川跡地賑わい空間整備事業」により「草津川跡地公園 de 愛ひろば」が、「草津川跡地テナントミックス事業」により「クサツココリバ」が整備され、平成14年以降廃川敷地となっていた中心市街地を東西に貫く未利用地が、市民や来訪者が集うまちの新しいスポットに生まれ変わった。

草津川跡地公園 de 愛ひろばでは、供用開始から3年目を迎え、まちづくり会社に限らず、民間団体が主催するマルシェなど、様々な主体によるイベントが開催されるなど、市民活動や交流の拠点となっている。

これらの取組により、店舗の出店や歩行者通行量の増加など、新たなにぎわいや人の流れが生まれ、中心市街地に活気が出てきたと感じられる。一方で、事業効果の面的な広がりが十分ではなく、特に衰退傾向にある本陣周辺エリアにまで波及しきれていない。今後は、各拠点を繋げる取組を行うことで、中心市街地の回遊性を向上させることが必要である。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】（基準日：毎年度12月31日）

| （中心市街地 地区域） | 平成24年 度（計画前 年度） | 平成25年 度（1年目） | 平成26年 度（2年目） | 平成27年 度（3年目） | 平成28年 度（4年目） | 平成29年 度（5年目） | 平成30年 度（最終年 度） |
|----------------|-----------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------------|
| 人口 | 22,136 | 22,368 | 22,450 | 23,209 | 23,368 | 23,446 | 23,670 |
| 人口増減数 | 443 | 232 | 82 | 759 | 159 | 78 | 224 |
| 自然増減数 | 127 | 125 | 91 | 93 | 122 | 95 | 84 |
| 社会増減数 | 411 | 241 | 171 | 597 | 122 | 111 | 168 |
| 転入者数 | 1,713 | 1,542 | 1,502 | 1,858 | 1,446 | 1,379 | 1,547 |

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ① 概ね順調に進捗・完了した ② 順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
② 若干の活性化が図られた
③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

計画した事業については、(仮称)市民総合交流センターや北中西・栄町地区市街地再開発事業などが計画期間中に完成に至らなかったものの、アニマート跡地賑わい空間整備事業や草津川跡地賑わい空間整備事業等の拠点整備が完了するなど、概ね順調に進捗・完了したと考えられる。

また、中心市街地の人口については、計画策定以降増加傾向にあり、歩行者通行量についても、基準値である平成24年度の11,067人から平成30年度は12,967人と大幅に増加した。

中心市街地の空き店舗率は、基準値である平成24年度の10.4%から平成30年度は9.3%と改善されており、活性化事業で取り組んだテナントミックス事業や魅力店舗誘致事業の効果に加えて、民間の出店も大きく寄与していると考えられる。

しかし、福祉・文化・交流施設の利用者数については、計画期間中に(仮称)市民総合交流センターが完成に至らなかったことや、くさつシティアリーナの供用開始が遅れたことから、目標値を下回ることとなった。

以上のことを勘案し、中心市街地においては若干の活性化が図られたと考えられる。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
② 若干の活性化が図られた
③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

草津市中心市街地活性化協議会としては、行政、商工会議所、まちづくり会社を中心に、公民一体となって中心市街地活性化を推進した結果、計画に位置付けた事業は概ね順調に実施されたと考える。

「niwa+ (ニワタス)」や「草津川跡地公園 de 愛ひろば」等の拠点整備が完了するとともに、拠点を活用したイベントや魅力店舗の誘致などにより、新たなにぎわいが生まれ、歩行者通行量は増加し、空き店舗率は低下するなど、中心市街地の活性化に寄与したと評価できる。

一方で、計画に位置付けた「(仮称)市民総合交流センター整備事業」や「(仮称)野村スポーツゾーン整備事業」が計画期間内に供用開始されず、福祉・文化・交流施設の利用者数の目標が達成できなかった。また、整備された拠点周辺への効果の波及やエリア全体の活性化、中心市街地を回遊してもらうための環境整備といった課題が残されている状況であり、中心市街地の活性化のためには、今後も継続的なソフト事業の展開や、各事業、拠点間の連携、行政、民間事業者、地域住民等が一体となった取組を推進し、中心市街地における回遊性の向上と賑わいの創出を図っていくことが重要であると考えられる。

今後も、中心市街地の活性化に向けて、引き続き、公民一体となって積極的に事業に取り組んでいく。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

平成29年度に実施した「中心市街地に関する市民アンケート」や「草津市のまちづくりについての市民意識調査」によると、中心市街地に活気があると感じている市民は約半数に及び、中心市街地に対する満足度は計画策定時の平成25年度に比べて上昇していることから、若干の活性化が図られたものと考えられる。

中心市街地に関する市民アンケート

<調査概要>

調査対象：18歳以上の市内居住者から3,000人を無作為抽出

調査方法：郵送調査（配布・回収は郵送）

発送日：平成29年10月19日（木）

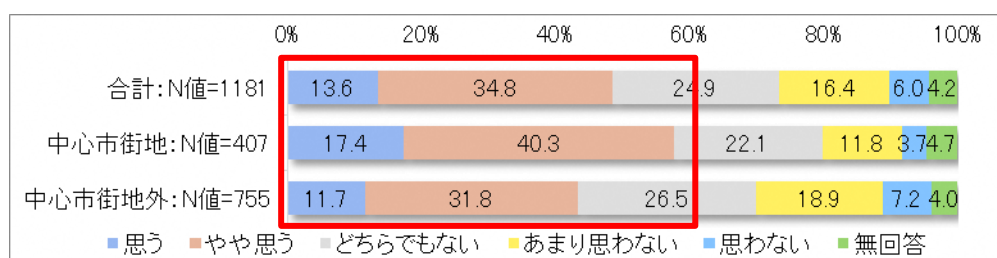
有効回答：1,181票（回収率39.4%）

<中心市街地に対する満足度、認知度>

現在の中心市街地の満足度を教えてください

「人が多く、賑わっていて、活気がある」

○約48%の人が中心市街地に活気があると感じており、中心市街地居住者に限ると約58%である。



草津市のまちづくりについての市民意識調査 [平成29年度]

<調査概要>

調査対象：住民基本台帳の18歳以上の者から、年齢、居住地域の2段階による層化無作為抽出した市民3,000人

調査方法：郵送およびインターネット

調査期間：平成30年2月9日（金）から2月26日（月）

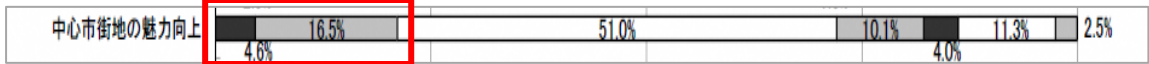
有効回答：785件（回収率26.2%）

<「活気」があふれるまちをつくるための基本方針>

中心市街地に関する満足度

○平成25年度調査時は「満足」「やや満足」を合わせて21.1%であったものが、平成29年度調査時には25.3%に上昇している。

平成25年度



平成29年度



6. 今後の取組

引き続き中心市街地の活性化に取り組む必要があるという認識のもと、平成31年3月18日に新たな中心市街地活性化基本計画の認定を受けたところである。

今後は拠点整備のみにとどまらず、その事業効果がエリア全体で発揮されるように、周辺や拠点間を結び、中心市街地の回遊性を高めるための事業や環境整備を推進し、「ひとが行き交いひとが集い にぎわいと交流が広がる健幸なまち」を公民一体となって進める。

具体的には、くさつシティアリーナの供用開始や、(仮称)市民総合交流センター、北中西・栄町地区市街地再開発事業、(仮称)草津市立プールの完成が見込まれることから、これらの拠点と、第1期計画において整備した各活性化拠点への集客に加え、くさつ夢本陣前スペース活用事業や中心市街地公共空間賑わい創出事業などのソフト事業によって、エリア全体への波及効果と回遊性を高める取組を進める。

(参考)

各目標の達成状況

| 目標 | 目標指標 | 基準値 | 目標値 | 最新値 | | 達成状況 |
|--------------------|------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|--------|------|
| | | | | (数値) | (年月) | |
| 歩いて楽しい回遊性の高いまち | 歩行者通行量(平日) | 11,067人/日(H24) | 11,709人/日(H30) | 12,967人/日 | H30.8 | A |
| 個性的で魅力のある店舗が集積するまち | 空き店舗率 | 10.4%(H24) | 9.5%(H30) | 9.3% | H30.12 | A |
| | 【参考】魅力ある新たな店舗の増加数 | 0店舗 | 18店舗 | 14店舗 | H31.3 | B |
| 幅広い世代が交流するまち | 福祉・文化・交流施設の利用者数(平日・休日) | 448,760人/年(H23) | 538,512人/年(H30) | 345,017人/年(H30) | H31.3 | c |

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

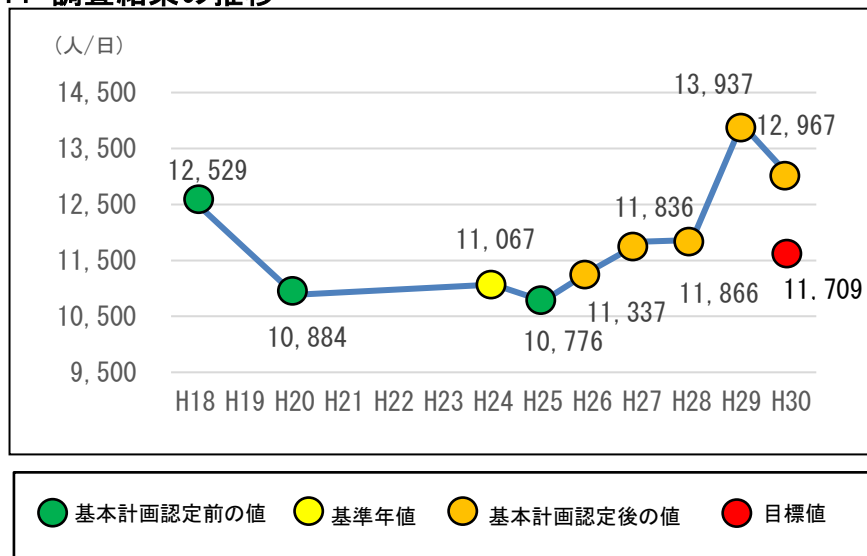
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「歩行者通行量（平日）」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 123～P. 130 参照

1. 調査結果の推移



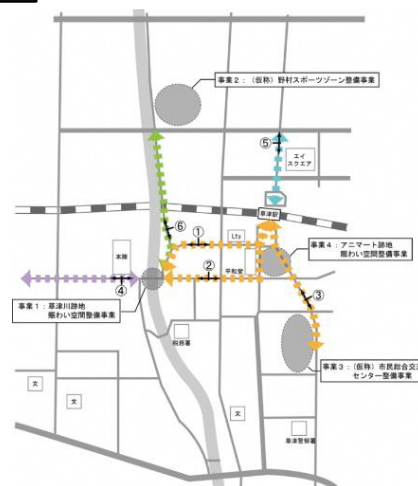
| 年 | (人/日) |
|-----|------------------|
| H24 | 11,067 (基準年値) |
| H25 | 10,776 |
| H26 | 11,337 |
| H27 | 11,836 |
| H28 | 11,866 |
| H29 | 13,937 |
| H30 | 12,967 |
| H30 | 11,709 (目標値) |

※調査方法：歩行者を毎年8月の平日に6地点において
午前10時から午後8時で計測

※調査月：毎年8月の平日

※調査主体：草津市

※調査対象：中心市街地内の6地点における歩行者通行量



2. 目標の達成状況【A】

目標指標については、目標値 11,709 人/日に対して、平成30年度の実績値は 12,967 人/日となり、大幅に目標を上回ることができた。

一部事業の進捗の遅れがあったものの、「草津川跡地賑わい空間整備事業」によって「草津川跡地公園 de 愛ひろば」が、平成29年度に供用開始されたことにより、草津川跡地周辺の歩行者通行量の大幅な増加につながった。平成30年度の歩行者通行量は29年度に比べて若干の減少が見られたものの、目標値を超えており、達成状況はAとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. アニマート跡地賑わい空間整備事業（草津市、草津まちづくり株式会社）

| | |
|----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成25年度～平成26年度【済】 [認定基本計画：平成25年度] |
| 事業概要 | JR草津駅前の低未利用地を魅力的な空間として整備・活用するものであり、ガーデニングを施した緑化広場と民間による商業テナントミックスを複合的に整備する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置活用なし [認定基本計画：中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（平成25年度）] |
| 目標値・最新値及び達成状況 | 目標値：測定地点①②⑥7,561人/日 最新値：測定地点①②⑥7,867人/日 目標達成 |
| 達成した（出来なかった）理由 | 長年、低未利用地であった場所に緑化広場と商業テナントがniwa+（ニワタス）として整備されたことで、歩行者通行量の増加に寄与した。 |
| 計画終了後の状況（事業効果） | 平成26年7月の完成後は、店舗利用者による日常的なにぎわいと、ガーデンバーナイトなどのイベント時によるにぎわいが見られる。また、まちづくり会社と市民団体との協働による植栽のお手入れ会が月に1回実施されており、高質な緑化空間が維持され、憩いの場となっている。 |
| 事業の今後について | まちづくり会社と共催することで、緑化広場をイベント開催などに利用できることを周知し、さらに人が行き交う場所になることを目指す。 |

②. 東海道・草津宿テナントミックス事業（草津まちづくり株式会社）【平成26年度追加】

| | |
|----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成27年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 空き店舗が特に増加している本陣周辺エリアにおいて、旧街道の街並みにふさわしい景観の形成と賑わい創出を目的に民間による商業テナントミックスを複合的に整備する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地再生事業費補助金（経済産業省）（平成26年度） [認定基本計画：中心市街地再興戦略事業費補助金または中心市街地再生事業費補助金（経済産業省）（平成27年度～）] |
| 目標値・最新値及び達成状況 | 目標値：測定地点④1,662人/日 最新値：測定地点④2,030人/日 目標達成 |
| 達成した（出来なかった）理由 | 空き店舗が顕著なエリアにおいて、日本料理店と木工店の2店舗を整備したことによって、新たなにぎわいを創出することができた。 |
| 計画終了後の状況（事業効果） | 平成27年10月の開店以降は、まちづくり会社に対して、本陣周辺エリアへの出店に関する問い合わせが増加している。 |
| 事業の今後について | 今後は、引き続き空き家・空き店舗の情報収集と出店ニーズ等の調整を進め、事業実施につなげる。 |

③. 草津川跡地テナントミックス事業（草津まちづくり株式会社）【平成27年度追加】

| | |
|----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成28年度【済】 [認定基本計画：平成28年度～] |
| 事業概要 | 市が草津川跡地において整備する「ガーデンミュージアム」をコンセプトとした質の高い緑による空間に、ガーデンと一体の魅力ある店舗の整備を行うもの。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 地域・まちなか商業活性化支援事業（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（平成28年度） |
| 目標値・最新値及び達成状況 | 目標値：測定地点①②⑥7,561人/日 最新値：測定地点①②⑥7,867人/日 目標達成 |
| 達成した（出来なかった）理由 | 事業が予定どおり完了し、「クサツコリバ」としてオープンした。草津川跡地周辺の歩行者通行量増加に寄与した。 |
| 計画終了後の状況（事業効果） | 誘致したイタリア料理店、カフェ、ホットヨガスタジオの3店舗には安定した来客があり、店舗利用前後に de 愛ひろばへ向かう人の流れも出てきている。 |
| 事業の今後について | de 愛ひろばで開催されるイベントとタイアップするなど、活性化につながる取組を進めていく。 |

④. 草津川跡地賑わい空間整備事業（草津市）

| | |
|----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成22年度～平成28年度【済】 [認定基本計画：平成22年度～平成28年度（平成27年度繰越）] |
| 事業概要 | 草津川跡地を「ガーデンミュージアム」をコンセプトとして、質の高い緑による美しい空間、市民活動の舞台となる広場、非常時の避難場所として整備を行うもの。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（旧草津川周辺地区））（国土交通省）（平成23年度～平成27年度） [認定基本計画：社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（旧草津川周辺地区））（国土交通省）（平成25年度～平成27年度）] |
| 目標値・最新値及び達成状況 | 目標値：測定地点①②⑥7,561人/日 最新値：測定地点①②⑥7,867人/日 目標達成 |
| 達成した（出来なかった）理由 | 平成14年度以降廃川敷地となっていた場所に、市民や来訪者が多く集う空間ができたため。 |
| 計画終了後の状況（事業効果） | 市民や来訪者の憩いの場として、また散歩やランニングコースとしても利用され、草津川跡地周辺の歩行者通行量に大きく寄与した。 |
| 事業の今後について | 中心市街地内の他の活性化拠点と連携し、エリア内の回遊性の向上につながる取組を、引き続き実施する。 |

⑤. （仮称）市民総合交流センター整備事業（草津市）

| | |
|--------|--|
| 事業実施期間 | 平成29年度～平成31年度【実施中】 [認定基本計画：平成24年度～平成29年度] |
| 事業概要 | 大規模低未利用地を活用し、老朽化が著しい近隣の公共施設 |

| | |
|----------------|--|
| | を集積させ、「子育て支援機能」、「多世代交流機能」、「商業・業務機能」、「複合的コミュニティ形成機能」を持った複合施設を整備する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（草津駅周辺都市機能誘導区域地区（都市再構築戦略事業）））（国土交通省）（平成31年度） 〔認定基本計画：社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（草津市中心市街地地区））（国土交通省）（平成27年度～平成29年度）〕 |
| 目標値・最新値及び達成状況 | 目標値：測定地点③1,688人/日 最新値：－ 未達成 |
| 達成した（出来なかった）理由 | 事業スキームの変更等があり、整備スケジュールに遅れが生じたため、計画期間内に事業が完了しなかった。 |
| 計画終了後の状況（事業効果） | 事業完了後は、低未利用地であった場所に新たな人の流れが創出されるため、大幅な歩行者通行量の増加が見込まれる。 |
| 事業の今後について | 引き続き、完成に向けて事業を実施する。 |

⑥.（仮称）野村スポーツゾーン整備事業（草津市）

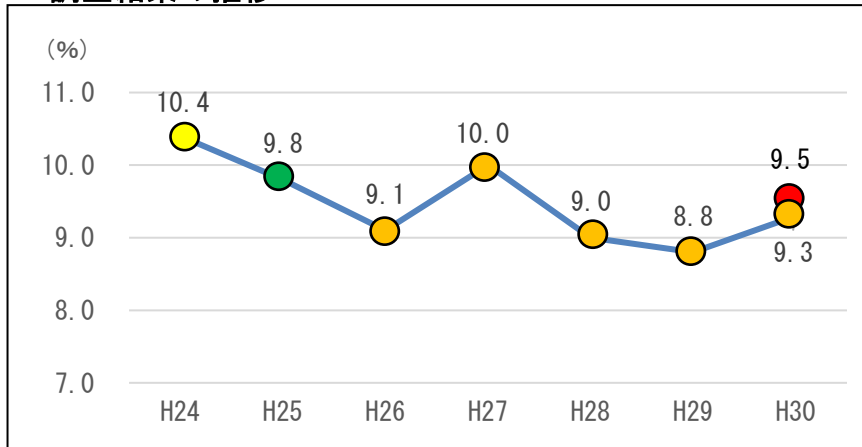
| | |
|----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成24年度～平成30年度【済】 |
| 事業概要 | JR草津駅西口から徒歩圏内に位置する公園として、プロスポーツの試合や各種イベントの開催など、子どもから大人まで、誰もが気軽に利用し、交流を育むことができる公園として整備する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（草津市中心市街地地区））（国土交通省）（平成27年度～平成30年度） |
| 目標値・最新値及び達成状況 | 目標値：測定地点⑤1,398人/日 最新値：－ 未達成 |
| 達成した（出来なかった）理由 | 平成30年度中に完成したものの、計画期間内に供用開始されなかったことから、歩行者通行量の増加には寄与しなかった。 |
| 計画終了後の状況（事業効果） | 令和元年6月からプロスポーツの試合や各種イベントの開催、地域スポーツの活動拠点として利用されることから、歩行者通行量の増加につながると見込まれる。 |
| 事業の今後について | 各拠点施設と連携したイベント等を実施することで、エリア全体の活性化につなげる。 |

4. 今後の対策

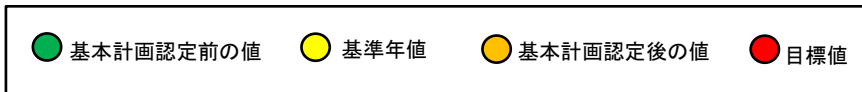
今後は、（仮称）野村スポーツゾーン整備事業や（仮称）市民総合交流センター整備事業の供用開始が予定されていることから、JR草津駅を挟んだ駅東エリアと駅西エリアに活性化拠点が新たにできることで、新たな人の流れができると期待される。一方で、本陣周辺エリアの歩行者通行量が多くないことから、各拠点整備の効果が限定的にならないように、回遊性の向上を図るため、草津川跡地公園 de 愛ひろばの集客も活用しながら、中心市街地全体に効果を波及される取組を引き続き検討していく。

「空き店舗率」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 130～P. 131 参照

1. 調査結果の推移



| 年 | (%) |
|-----|----------------|
| H24 | 10.4 (基準年値) |
| H25 | 9.8 |
| H26 | 9.1 |
| H27 | 10.0 |
| H28 | 9.0 |
| H29 | 8.8 |
| H30 | 9.3 |
| H30 | 9.5 (目標値) |



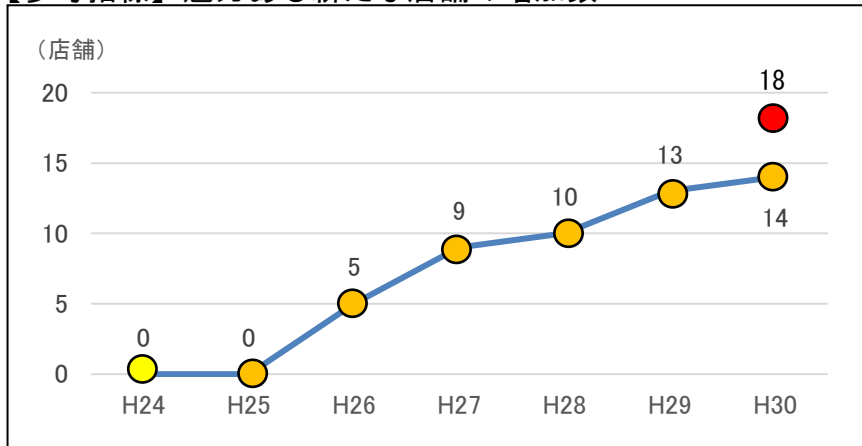
※調査方法：現場確認による空き店舗調査

※調査月：毎年10～12月

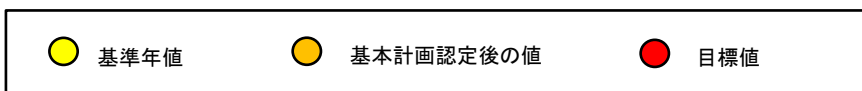
※調査主体：草津市

※調査対象：中心市街地における空き店舗

【参考指標】魅力ある新たな店舗の増加数



| 年 | (店舗) |
|-----|-------------|
| H24 | 0 (基準年値) |
| H25 | 0 |
| H26 | 5 |
| H27 | 9 |
| H28 | 10 |
| H29 | 13 |
| H30 | 14 |
| H30 | 18 (目標値) |



※調査方法：活性化事業実施による魅力店舗の年間増加数

※調査月：毎年4月

※調査主体：草津市

※調査対象：活性化事業によって新規出店した魅力ある店舗

2. 目標の達成状況【A】

空き店舗率の改善に向けた各事業については、おおむね予定どおり完了した。一部のテナントミックス事業において、予定していた店舗数を下回り、事業単体では目標達成していない部分があるものの、周辺への波及効果等もあり、全体としては事業効果を発現することができた。

平成30年度の目標値9.5%に対して、実績値9.3%と目標達成したため、達成状況はAとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. アニマート跡地賑わい空間整備事業（草津市、草津まちづくり株式会社）

| | |
|----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成25年度～平成26年度【済】 [認定基本計画：平成25年度] |
| 事業概要 | JR草津駅前の低未利用地を魅力的な空間として整備・活用するものであり、ガーデニングを施した緑化広場と民間による商業テナントミックスを複合的に整備する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置活用なし [認定基本計画：中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（平成25年度）] |
| 目標値・最新値及び達成状況 | 目標値：6店舗 最新値：5店舗 未達成 |
| 達成した（出来なかった）理由 | 長年、低未利用地であった場所に緑化広場と商業テナントがniwa+（ニワタス）として整備されたことで、店舗数は増加した。しかし、カフェ等飲食店を6店舗誘致する予定であったが、テナントリーシングの過程で5店舗となった。 |
| 計画終了後の状況（事業効果） | 平成26年7月の完成後は、店舗利用者による日常的なにぎわいと、ガーデンバーナイトなどのイベント時によるにぎわいが見られる。また、まちづくり会社と市民団体との協働による植栽のお手入れ会が月に1回実施されており、高質な緑化空間が維持され、憩いの場となっている。 |
| 事業の今後について | ガーデンバーナイトなどのイベント実施により、商業的な魅力を高め、エリア内の新規出店につなげる。 |

②. 東海道・草津宿テナントミックス事業（草津まちづくり株式会社）

| | |
|----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成27年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 空き店舗が特に増加している本陣周辺エリアにおいて、旧街道の街並みにふさわしい景観の形成と賑わい創出を目的に民間による商業テナントミックスを複合的に整備する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地再生事業費補助金（経済産業省）（平成26年度） [認定基本計画：中心市街地再興戦略事業費補助金または中心市街地再生事業費補助金（平成27年度～）] |
| 目標値・最新値及び達成状況 | 目標値：4店舗 最新値：2店舗 未達成 |
| 達成した（出来なかった）理由 | 貸主との調整等が必要であるため、目標値には届かず、日本料理店と木工店の2店舗の整備に留まった。 |

| | |
|--------------------|---|
| 計画終了後の状況 (事業効果) | 平成27年10月の開店以降は、まちづくり会社に対して、本陣周辺エリアへの出店に関する問い合わせが増加している。 |
| 事業の今後について | 今後は、引き続き空き家・空き店舗の情報収集と出店ニーズ等の調整を進め、事業実施につなげる。 |

③. 草津川跡地テナントミックス事業（草津まちづくり株式会社）【平成27年度追加】

| | |
|--------------------|--|
| 事業実施期間 | 平成28年度【済】 [認定基本計画：平成28年度～] |
| 事業概要 | 市が草津川跡地において整備する「ガーデンミュージアム」をコンセプトとした質の高い緑による空間に、ガーデンと一体の魅力ある店舗の整備を行うもの。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 地域・まちなか商業活性化支援事業（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（平成28年度） |
| 目標値・最新値及び達成状況 | 目標値：6店舗 最新値：3店舗 未達成 |
| 達成した（出来なかった）理由 | 当初は6店舗誘致する予定だったが、テナントリーシングの過程で1店舗あたりの面積を増やしたこと等により、カフェ等飲食店2店舗、ホットヨガスタジオ1店舗の計3店舗となった。 |
| 計画終了後の状況 (事業効果) | 廃川敷地にできた公園内の店舗で、視認性が悪い立地とされていたが、店舗は安定した集客力を持っており、草津川跡地周辺のにぎわいを生み出している。 |
| 事業の今後について | 今後も店舗の魅力を向上させることで、周辺の商業的価値向上につなげ、エリア内の新規出店増加を目指す。 |

④. 魅力店舗誘致事業（草津市、草津市中心市街地活性化協議会）

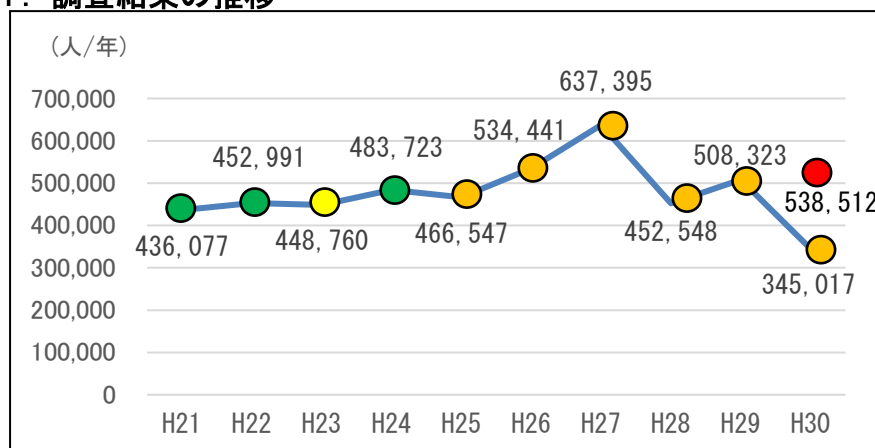
| | |
|--------------------|---|
| 事業実施期間 | 平成25年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 商店街の空き店舗の情報を把握し、個々の商店街の持つ立地や歴史性、顧客ニーズや利用者層等から必要な商業機能等を分析し、地域に必要な機能を戦略的に誘致し整備する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（草津市中心市街地地区））（国土交通省）（平成27年度～平成30年度） |
| 目標値・最新値及び達成状況 | 目標値：2店舗 最新値：4店舗 目標達成 |
| 達成した（出来なかった）理由 | 平成27年度に寿司店とワインバル、平成28年度に日本料理店、平成30年度にベーカリーが、それぞれ空き店舗であった場所に開店した。 |
| 計画終了後の状況 (事業効果) | 空き店舗を活用した店舗の出店により、市やまちづくり会社に対して、中心市街地への出店希望者から事業内容の問い合わせが増加している。 |
| 事業の今後について | 引き続き、商店街の空き店舗情報や顧客ニーズの把握に努め、特に昼間のにぎわいにつながる出店を進めていく。 |

4. 今後の対策

「東海道・草津宿テナントミックス事業」や「魅力店舗誘致事業」をはじめとした活性化事業を継続して実施し、中心市街地の商業的な魅力を維持するとともに、駅周辺エリアのにぎわいを、衰退傾向にある本陣周辺エリアにまで波及させるような取組を展開する必要がある。

「福祉・文化・交流施設の利用者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 131～P. 134 参照

1. 調査結果の推移



| 年 | (人/年) |
|-----|-------------------|
| H23 | 448,760 (基準年値) |
| H24 | 483,208 |
| H25 | 465,817 |
| H26 | 534,670 |
| H27 | 637,395 |
| H28 | 452,548 |
| H29 | 508,323 |
| H30 | 345,017 |
| H30 | 538,512 (目標値) |

※調査方法：各施設（11施設）の年間利用者数の集計

※調査月：毎年6月

※調査主体：草津市

※調査対象：中心市街地に位置する福祉・文化・交流施設（11施設）

2. 目標の達成状況【c】

「(仮称)市民総合交流センター」と「(仮称)野村スポーツゾーン整備事業」が計画期間内に完了しなかったため、計画当初に見込んでいた効果を得られず、基準値にも届かない結果となった。「(仮称)野村スポーツゾーン整備事業」の工事の影響により、野村運動公園のテニスコートは平成29年7月から、体育館は平成30年8月からそれぞれ使用停止となり、施設利用者数に大きな影響が出た。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①.（仮称）市民総合交流センター整備事業（草津市）

| | |
|----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成29年度～平成31年度【実施中】 [認定基本計画：平成24年度～平成29年度] |
| 事業概要 | 大規模低未利用地を活用し、老朽化が著しい近隣の公共施設を集積させ、「子育て支援機能」、「多世代交流機能」、「商業・業務機能」、「複合的コミュニティ形成機能」を持った複合施設を整備する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（草津駅周辺都市機能誘導区域地区（都市再構築戦略事業））（国土交通省）（平成31年度） [認定基本計画：社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（草津市中心市街地地区））（国土交通省）（平成27年度～平成29年度）] |
| 目標値・最新値及び達成状況 | 目標値：149,286人/年 最新値：－ 未達成 |
| 達成した（出来なかった）理由 | 事業スキームの変更等があり、整備スケジュールに遅れが生じたため、計画期間内に事業が完了しなかった。 |
| 計画終了後の状況（事業効果） | 老朽化した近隣の公共施設が集積されるため、大幅な施設利用者数の増加が見込める。 |
| 事業の今後について | 引き続き、完成に向けて事業を実施する。 |

②.（仮称）野村スポーツゾーン整備事業（草津市）

| | |
|----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成24年度～平成30年度【済】 |
| 事業概要 | JR草津駅西口から徒歩圏内に位置する公園として、プロスポーツの試合や各種イベントの開催など、子どもから大人まで、誰もが気軽に利用し、交流を育むことができる公園として整備する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（草津市中心市街地地区））（国土交通省）（平成27年度～平成30年度） |
| 目標値・最新値及び達成状況 | 目標値：209,287人/年 最新値：－ 未達成 |
| 達成した（出来なかった）理由 | 平成30年度中に完成したものの、計画期間内に供用開始されなかったため。 |
| 計画終了後の状況（事業効果） | 令和元年6月からプロスポーツの試合や各種イベントの開催、地域スポーツの活動拠点として利用されることから、施設利用者数の増加につながると見込まれる。 |
| 事業の今後について | 認知度を高めるとともに、イベント開催などの施設利用者数の増加につながる取組を図っていく。 |

③. 草津宿本陣歴史館整備事業（草津市）

| | |
|----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成24年度～平成25年度【済】 |
| 事業概要 | 中心市街地の歴史的資源である国史跡草津宿本陣をより親しみやすいものとし、文化財としての価値向上を図るため、街道文化の再現や本陣の歴史の紹介、情報発信等を行う施設を整備する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 地域の元気臨時交付金（地域経済活性化・雇用創出交付金）（総務省） [認定基本計画：国の支援措置活用なし] |
| 目標値・最新値及び達成状況 | 目標値：29,995人/年 最新値：33,072人/年 目標達成 |
| 達成した（出来なかった）理由 | 事業は予定どおり完了し、草津宿本陣や草津宿街道交流館の利用者数の目標達成に寄与した。 |
| 計画終了後の状況（事業効果） | 毎月第1土曜日に「本陣楽座 落語会」が開催されており、演者との距離が近く、迫力ある催しが人気を博している。 |
| 事業の今後について | 引き続き、本陣エリアの活性化につながるようソフト事業の実施を推進していく。 |

4. 今後の対策

（仮称）市民総合交流センターや（仮称）野村スポーツゾーンの供用が開始されれば、施設利用者数は増加するものと考えられるが、ハード整備だけでなく、その施設の利用者を増やす取組や各拠点施設を繋げるようなソフト面の取組を図っていく。